

素敵な研究者の皆さんに、
ONとOFFのスマートスタイルについてお聞きしていきます。

リレーでつなぐ
ワーク・
ライフ・
バランス
vol.3



「仕掛けて」いこう
趣味を通じての子どもとの付き合い

ON
Style

人文学部教授 佐藤 裕

略歴

1985年大阪大学人間科学部卒業
1991年大阪大学大学院人間科学研究科単位取得退学
大阪大学助手を経て
1993年富山大学人文学部講師に着任
現在富山大学人文学部教授(社会学)

私の場合、妻が夜勤のある仕事で子ども(息子一人)がいて、親との同居もなしなので、否応なくご飯を作ったり子どもと関わったりしなくてはなりません。料理は得意でも好きでもなく、まあそれなりにこなしている、という感じで、他の家事についても同様です。

でも、子どもと関わる、というより子どもと一緒に遊ぶことについては、得意分野です。これまで本当にいるんなことをしてきました。

息子が小学校低学年のときにはトレーディングカードゲームを始めました。最初は私が仕掛けたのですが、二人して「はま」り、おもちゃやさんの店頭などで行われる大会にはしょっちゅう参加し、大阪や新潟の大会にも遠征しました。大人でもトレーディングカードゲームをしている人は実は結構多くて、インターネット上での交流とか、一時期は私自身の趣味と言えるものでした。

山登りも小学校4年生くらいに私が仕掛けました。まず雄山から始めて2000m級の山を次々登り、息子が中学1年の時に目標だった剣岳登山を果たしました(写真)。これは今でも続いていて、今年は剣岳(雨で登山は断念)、大日岳(日帰り)などに行きました。

ピアノはもともと息子の習いごとでしたが、レッスンについて行ったときに「やっぱりグランドピアノはいいなあ、先生が来るまでちょっと弾かせてよ」と遊んでいるところを先生に見つかってしまい、「じゃあ次の発表会はお父さんと連弾で」ということに。男の子と父親の連弾というのは珍しくてなかなかの注目度でした。やってみると結構楽しくて、その後同じ先生に私もレッスンを受けるようになってしまいました。

他にもランニング、サイクリングとか古城探訪とか、本当にいるんなことをしてきました。

こんな風に様々な活動を通じて子どもと付き合い合ってきたのは、なりゆき、という部分もちろんなのですが、ある程度のポリシーがあったのも事実です。

どうせ子どもと付き合いなくてはならないのなら、自分も楽しめる趣味を通じて付き合いおう。そのために積極的に「仕掛けて」いこう。そんな風に考えたし、ある程度はうまく行ったのだと思います。

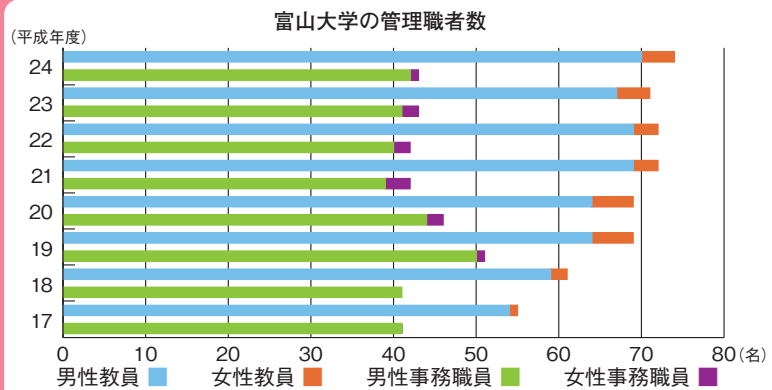
息子は来年高校生になります。さすがにこれまでのようには付き合いにくくなるでしょう。でも大丈夫。そこまでちゃんと考えてあります。

子どもとは関係のない自分だけの趣味は、細々とではありますがずっと続けてきました。パラグライダーというスカイスポーツです。今年は10年ぶりに大会に参加しました。たぶんこれが私自身の子離れのために役に立ってくれるでしょう。



息子が中学1年の時の剣岳登山

OFF
Style



数字で見る 富山大学のいろいろ

【富山大学の女性管理職の推移】(平成17年度～平成24年度)

管理職教員および管理職事務職員に占める女性の人数を示したものです。比率としては0%から7.2%となっています。グラフでは現れていませんが、同期間における機関のマネジメントに関わる女性の人数についてみると、役員会は7名中0名、教育研究評議会は28名中平成19～20年度のみ1名他は0名、経営協議会は18～20名中各年度1名、学部長0名となっています。

注 管理職教員とは、管理職手当の支給を受ける教員のうち附属学校教員を除いたものです。また管理職事務職員とは、管理職手当の支給を受ける事務系職員です。



発行
富山大学男女共同参画推進室

〒930-8555富山市五福3190
E-mail smart@ctg.u-toyama.ac.jp
TEL076-445-6146 FAX076-445-6063
URL http://www3.u-toyama.ac.jp/kyodoss/



編集後記
おかげさまで第3号になりました。お読みになった方々から様々な感想やご指摘が寄せられています。それを励みにスタッフ一同、より一層皆様のお役に立てる読みがいのあるニュースレターの発行に努めて参ります。来年もよろしく願い申し上げます。

男女共同参画推進室News Letter 編集メンバー

大工原ちなみ 小野行徳 須永恭子
永山くに子 東田千尋 南村有輝子 須藤梨沙



富山大学男女共同参画推進室

News Letter

Office for Gender Equality, University of Toyama

2012.12
第3号



チューリップの花言葉は、愛・思いやりです

TOPICS

- 男女共同参画担当理事から
- 世界からみた男女共同参画
- 活動報告
- 今後の活動予定
- 募集中
- 活動紹介
- リレーでつなぐワーク・ライフ・バランス
- 数字で見る富山大学のいろいろ

男女共同参画担当理事から

富山大学が推進する男女共同参画推進事業とWLB

富山大学男女共同参画担当理事
丹羽 昇

本学は平成20-22年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業において、課題名を『富山循環型女性研究者育成システムの構築』としてプロジェクトを展開し、特に理工系の女性研究者を中心に教育・研究支援のための環境調整・整備に努めてまいりました。

その結果、文部科学省の事後評価において総合Aと高い評価を得ることができました。支援モデル育成事業の終了後には事業の継続・発展が期待され、平成23年4月からは全学的な取組が引継がれ、現在に至っています。新事業の展開をめぐる、平成21年度に策定した「富山大学男女共同参画宣言文」(学生や教職員が性別にかかわらず、互いの人権を尊重しつつ能力を十分に発揮できる教育・研究・職場環境を作り出すこと)を基本方針として活動してまいりました。

事業推進体制としては、まず全学的な男女共同参画推進委員会を設置しました。委員会は担当理事のもと10部局から選出された教員10名、3キャンパスの職員3名、総務部長ならびに男女共同参画推進室員(室長、副室長)3名による構成になっています。一方、男女共同参画推進室はそれまで主に女性研究者支援事業の実施を担ってきましたが、平成23年4月以降は学長直属の組織として位置づけられ、室長、2名の副室長、コーディネーター1名の4名体制で従前から実施してきた事業の継続や新規事業を始動し

ました。現在は事務補佐員を加え、5名体制で活動しています。なお、推進室の業務内容は企画・運営・調整など多岐にわたっており多大な業務の遂行に苦慮しておりますが、さまざまな事業を円滑に推進してまいりたいと考えております。

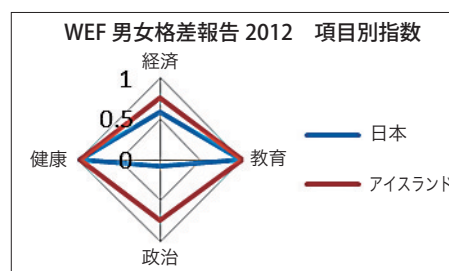
主な事業の進捗状況は逐次ニュースレターやWebサイトなどに掲載し、皆様からのご意見を頂きながら展開してまいりたいと考えています。現段階における事業は、意識改革のための啓発活動や教育・研究をサポートする事業が主流を占めています。一方、日本は世界に例をみない速度で少子高齢化に向かっていきます。女性の働きを抜きには成り立たない時代を見据え、大学には男女共同参画社会の構築に向けて知の拠点としての取組みが期待されています。そこで、男女共同参画推進事業が富山大学全体の教職員のWLB(Work Life Balance)を可能にし、一人ひとりが輝いて生きること、教育や研究活動への活力となることを目指します。

今後とも、男女共同参画事業を推進することにより大学がより発展していくことを大いに期待してください。



世界からみた男女共同参画

「男女格差報告2012」と「第3次男女共同参画基本計画」



世界経済フォーラム(WEF)は、10月24日、政治・経済・健康・教育の4分野における男女平等の度合を評価した2012年度版の「男女格差報告」を発表しました。日本は135カ国中101位という結果になりました。2年連続で順位は低下して、昨年よりも3つ下がっています。特に政治(110位)と経済(102位)の順位が低く、原因として女性議員・閣僚が少なく、企業でも管理運営部門は男性が大半を占めている点が指摘されました。先進・主要国の中で最低水準の評価が続いており、アジア・太平洋諸国でも23カ国中16番目となっ

ています。1位はアイスランド、以後フィンランドなどの北欧諸国が上位を占め、フィリピン8位、ドイツ13位、アメリカ22位、中国69位などとなっています。

日本も手をこまねいていたわけではなく、平成22年12月に、「第3次男女共同参画基本計画」が策定されています。第3次基本計画において改めて強調していることは、女性の活躍による経済社会の活性化です。

少子高齢化による労働力人口の減少が進む中で、女性がその能力を十分に発揮して経済社会に参画することは、労働供給の量的拡大や経済社会の活性化にとって必要不可欠と謳っています。そのためには実効性のある積極的改善措置(ポジティブ・アクション)の推進が必要で、「社会のあらゆる分野において、2020年までに、指導的地位に女性が占める割合が、少なくとも30%程度になるよう期待する」という目標が設定されています。

研究サポーター制度について

研究サポーター制度の後期利用申請は、6学部1研究所の14名(女性9名、男性5名)からあり、男女共同参画推進委員会に諮った結果、全員を申請額どおりに支援することを決定しました。申請者の所属部局数、採択者数ともにこれまでで最多です。10月より研究サポーターが配置されました。

研究サポーター制度の前期利用者7名から、利用実績報告書が届きましたので、一部をご紹介します。

研究サポーターの配置による効果について…

- 子(4歳、2歳)の育児のため研究に費やす時間の確保が困難なところ、基礎的な作業に研究サポーターの支援が得られたことで、研究に費やす時間を確保し、効率よく研究を推進することができました。来年度の学会で発表する予定です。
- 煩雑なデータ整理を研究サポーターに任せることができ、育児と研究を円滑に行うことが可能になりました。また、研究結果を作成中の論文に活かすことができました。
- 生体高分子量子化学計算用Webサービスの初期設定が終了しました。このWebサービスの機能を利用した計算を行い、現在論文投稿中です。
- 本年度に使用する講義資料の整理・印刷・製本、及び研究室の引越に伴うサポートを実施して頂きました。サポートを受けたことにより校務時間を大きく節約することができ、研究・原著論文執筆に時間をあてることが可能になりました。

本制度の今後の改善点などについて…

- とても有用な制度なので、今後とも継続をお願いいたします。
- 恒常的な支援を受けられるよう、利用期間などを拡充して頂ければ、より大きな成果が得られると考えられます。



◆男女共同参画推進啓発シンポジウム 「先輩に学ぼう！ーワークもライフも輝く生き方ー」を開催しました

開催日：11月22日(木)
会場：杉谷キャンパス 講義実習棟 1階 大講義室

富山大学の卒業生であり、多方面でご活躍中のお二人に、男女共同参画推進の視点から多様な生き方についてお話を伺いました。詳細は次号ニュースレターで紹介します。

- 種部 恭子 先生(女性クリニックWe!富山院長・富山県医師会常任理事)
『仕事も、家庭も手に入れよう』
- 浅生 幸子 先生(社会福祉法人すこやかこども福祉会副理事長・大沢野北部保育園園長、前富山市議会議員)
『勇気・挑戦・未来ーしなやかに、したたかにー』



◆文部科学省主催 女性研究者研究活動支援事業合同シンポジウム ー今後の女性研究者研究活動支援についてーに参加しました

開催日：11月20日(火)
会場：独立行政法人科学技術振興機構 東京本部 (サイエンスプラザ)

◆独立行政法人 国立女性教育会館主催 「大学等における男女共同参画推進セミナー」に参加しました

開催日：11月29日(木)～11月30日(金)
会場：国立女性教育会館

各シンポジウム・セミナーについては、次号で報告します。

今後の活動予定

◆男女共同参画推進室ではFD研修会を計画しています 今年度中に女性研究者の交流会を検討しています！

◆「留学して研究するというin杉谷2nd」を開催します

前回(五福)、前々回(杉谷)ともに好評だった「留学して研究するというin」セミナーの第3回目を杉谷キャンパスで開催する予定です。詳細は学内掲示板等でお知らせいたします。

男女共同参画推進室のWebサイト

男女共同参画推進室では、「研究サポーター」「ベビーシッター・休日保育利用料補助」制度等の紹介、「夏季学童保育」「留学セミナー」「SMARTな集い」や活動報告、「研究助成等の公募情報」など様々な情報を発信しています。ぜひ、富山大学男女共同参画推進室を検索してみてください！人材バンクの利用もWebサイトからできます。

男女共同参画推進室Webサイトのアクセス方法

富山大学 → 男女共同参画 → 男女共同参画推進室

Webで 富山大学男女共同参画推進室 検索
URLで <http://www3.u-toyama.ac.jp/kyodoss/>

富山大学人材バンク アクセス方法
Webで 富山大学人材バンク 検索
URLで http://www3.u-toyama.ac.jp/smart/03_torikumi/jinzaibank/jinzaibank.html

募集中

◆ベビーシッター・休日保育利用料補助制度募集中(随時)

申請資格・申請条件・申請時期

事前申請・立替払いによる支援制度です。富山大学に勤務する常勤の教職員で、中学校就学前の子を養育している方が対象です。男性も女性も申請できます。利用の予定が決まり次第、できるだけ早く男女共同参画推進室にお申し込みください。

こんな場合に使えます

- 宿泊を伴う出張
- 保育所閉所時間までに帰れない
- 休日における入試業務等

平成24年度学長裁量経費決定

平成20年度に新設された「学長裁量経費・女性研究者支援経費」は、今般の厳しい財政状況の中にあっても女性研究者のリーダーシップ育成の支援のために今年度も措置されました。審査の結果、10月31日付で、4名の女性研究者が採択されました。

活動紹介

錯体化学会市民講座 「“理系女子[RiKEJO]”が世の中を変えていく」 が開催されました

開催日：9月22日(土) 会場：五福キャンパス 黒田講堂ホール

9月22日に錯体化学会主催、富山大学、富山県、富山市後援の市民講座、「理系女子[RiKEJO]”が世の中を変えていくー女性化学賞受賞者からのメッセージー」が開催されました。第1部では世界化学年女性化学賞を受賞された神戸大学特別顧問である相馬芳枝先生の基調講演、第2部ではさらに3人の女性研究者と富山中部高校、富山高校の女子生徒も交えたパネルディスカッションが行われました。基調講演ではごく最近新しい科学現象を発見し受賞した女子高校生を含む女性研究者の活躍ぶりが示され、今後の女性の活躍にたいする期待が述べられました。パネルディスカッションは、高校生の質問に答える形で進められ、「理系は男子の方が向いているのではないかと」、「留学するとならいつがいいか」などの多様な質問が出ました。パネリストからは、「理系と文系に迷ったら是非理系を選んで」などの意見が述べられました。会場には女子高校生も多くみられ、有意義な講座だったとの声が聞かれました。

